

河野翔太の卒論発表

『荒地』におけるT. S. Eliotの死生観
及び意識の流れ手法によるその強調



プレゼンの流れ

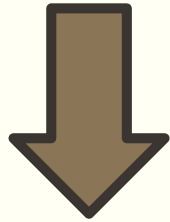
- T. S. Eliotとは
- 卒論の大まかな構成説明
- 意識の流れ手法とは何か
- 作品から読み取る作者の死生観
- まとめ

T. S. Eliotとは

T. S. Eliot (Thomas Sterns Eliot) は、アメリカ生まれのイギリス人詩人。

アメリカからイギリスに帰化した。

1948年、ノーベル文学賞受賞



数多くある作者の作品の中から、

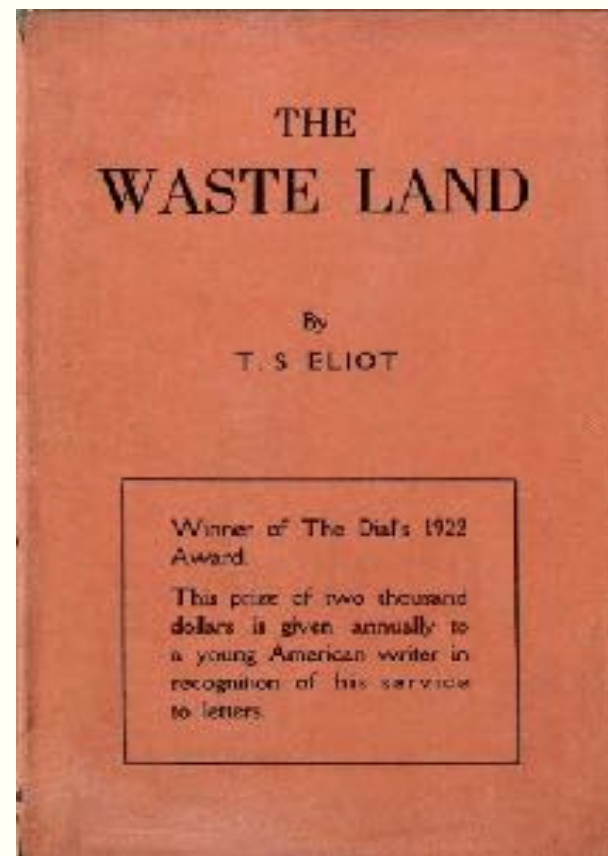
『荒地』 (*The Waste Land*) という作品を選びました



『荒地』 (The Waste Land)について

- 1922年に発表された、長編詩
- 5部構成
- 荒れた土地（死に絶えた大地）をテーマとした作品で、作者の死や生に関する考えが込められている。
- 第一次世界大戦の経験が、作品執筆に深く影響している。
- 内容理解がめちゃくちゃ難しい!!!!

(理由は後程)



卒論のおおまかな構成(序論、結論は省く)

■ 第2章

- 意識の流れ手法という
- 文学手法について

■ 第3章

- 作品、1から2部の本文から死生観解釈+それぞれの部における文学手法を考察

■ 第4章

- 残りの部の死生観解釈+それぞれの部における文学手法を考察

意識の流れ手法とは

- ・ 現代小説において好んで用いられた文学手法



- ・ 詩で用いられるのは稀
- ・ 簡単に説明すると、人間の意識の様に、移り変わったり、脈絡のないスタイルを

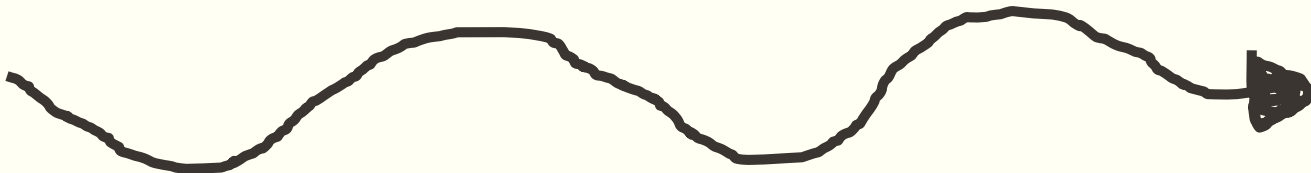
文学において表現するための手法

起

承

転

(一般文学作品)



(意識の流れを用いた文学作品)

『荒地』において、意識の流れを創る方法は2つ

1. 直接的内的独白・・・ 主語のない文
2. 間接的内的独白・・・ 挿話（他の作家さんの作品からの引用）



作品で語られている作者の死生観

- ・世の中が荒廃し、死に支配されている。（第一次世界大戦により）
- ・生きている事の辛さ。
- ・避妊行為の出現により、人間が死や生を司る事が可能となった事実に対する批判。
- ・荒廃が人間の心にまで及んでいると指摘。その原因は、欲望である。
- ・荒廃からの脱却の手段としての、水死の提示。（現実問題これは暴論）

→もう一つの手段として自己犠牲、協調性を持つ事の重要性を提示。

文学手法に関して

挿話利用が大多数を占めている。



まとめ

- ・ Eliotの死生観は、スライド7で紹介しました。

作品内容に対する意識の流れ手法（文学手法）の作用としては、

1. 挿話を多用することにより、作者の考えを色濃く読者へと伝える。
 2. 主語のない文も利用する事により、意識の流れを保つ。
 3. Eliotの文学観へのマッチング
 - ・ 「詩人の優劣は作品内で表現される感情の複雑さや、面白みで決まる」
- 挿話や、主語のない文は、読者の解釈の違いが起こる余地を残す。
- ・ 非個性を好んだ

他の作者（第三者）の作品に挿話利用する事により、作品に高知性を持たせる

参考文献

一次資料

Eliot, T S. *The Complete Poems and Plays of T. S. Eliot*.

Faber and Faber, 1969.

エリオット、T. S. 『荒地』、西脇順三郎訳編、創

元社、1952年。

二次資料

Gordon, Lyndall. “‘Mixing / Memory and Desire’: What Eliot’s Biography Can Tell Us.” Edited by McIntire, pp. 39-53.

Holman, C. Hugh, et al. “The Stream-of-Consciousness Novel.” Edited by Steinberg, pp. 5-7.

Humphrey, Robert. *Stream of Consciousness in the Modern Novel*. U of California P, 1965.

James, William. “The Stream of Consciousness.” Edited by Steinberg, pp. 42-45.

McIntire, Gabrielle, editor. *The Cambridge Companion to The Waste Land*. Cambridge UP, 2015.

---. “The Waste Land as Ecocritique.” Edited by McIntire, pp. 178-193.

Miller, James Edwin, Jr. *T. S. Eliot’s Personal Waste Land*. Pennsylvania UP, 1977.

Potter, Rachel. “Gender and Obscenity in *The Waste Land*.” Edited by McIntire, pp. 133-146.

Rabaté, Jean-Michel. “‘The World Has Seen Strange Revolutions Since I Died’: *The Waste Land* and the Great War.” Edited by McIntire, pp. 9-23.

Spurr, Barry. “Religions East and West in *The Waste Land*.” Edited by McIntire, pp. 54-68.

Steinberg, Erwin R., “The Psychological Stream of Consciousness.” Edited By Steinberg, pp. 125-138.

---. “The Stream of Consciousness Technique Defined.” Edited by Steinberg, pp. 152-163.

---, editor. *The Stream of Consciousness Technique in the*

荒木映子『生と死のレトリック—自己を書くエリオットとイエイツ』、英宝社、1996年。

越沢浩『T.S.エリオット「荒地」を読む』、勁草書房、1992年。

瀬古潤一「『荒地』と『我らが共通の友』再考」、T.S. Eliot Review 27号（2016年）、99-114頁。

ダレル、ロレンス『現代詩の鍵』、須原和男訳、牧神社、1973年。

ハンフリー、ロバート『現代の小説と意識の流れ』、石田幸太郎訳、英宝社、1970年。

山本勢津子「言葉の森を抜けて—『荒地』における引用」、T.S. Eliot Review 27号（2016年）、22-35頁。